

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有しているが、なかなかその通りには進まない	毎月1回のユニットごとのミーティングでは、理念を掘り下げての管理者から話があり、職員全体で話し合い、理念を具体化したケアについて意思統一を図っている。入居の際にも入居者や家族に十分説明されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の経営者及び管理者が古くからこの地域に暮しており、隣組の関係で交流が出来る	町会に加入しており、夏祭り、老人会などの案内もいただいている。松本地方の夏の風物詩、「青山さま」のお祭りでは神輿が来たり、「ぼんぼん」では浴衣の子供達も来訪してくれる。近隣とも顔見知りが入居者の無断外出にも連絡をいただいている。フラダンスや日本舞踊、手品、寸劇などのボランティアや近くの幼稚園児、中学生との交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生(中学・高校)の体験学習や福祉の職場体験の受入に協力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議＝ホーム会議として 色々な取り組みや地域・家族の方との意見交換の場として利用しサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、民生委員、地域包括支援センターの職員を交えて「認知症と高齢者」、「ターミナルとホームでの取り組み」等の議題に沿って話し合いに取り組んでいる。「夕涼み会」などの行事の際には家族にも参加していただき実施している。	定期的開催されている運営推進会議の議事録や次回の議題内容等を家族等に伝え、更に出席を促したり、意見をいただけるように工夫していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取組んでいる	認知症対応型デイサービスの開設計画での細部のことやスプリンクラー設置の件で管理者が地域包括支援センターや市町村担当者と連絡をとっている。訪問調査時、市から派遣された2名の介護相談員の来訪もあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないつもりだが 但し 介護スタッフの現場対応状況により無断離設を想定して玄関施錠もありえる	全職員が話し合いを通して拘束について正しく理解している。職員の手薄な時間帯に一時的ではあるが入居者の安全を考え施錠することはある。緊急避難的に転倒防止のためベッドに柵をすることがあるが必ず家族の了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めている		

グループホームりんごの樹・きいろユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に詳しく説明し理解をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は大切に考え ホーム内で話し合い それなりに反映させている	毎週ホームを訪れる家族や季節ごとに服の入れ替えにと来訪する場合もある。管理者は入居者の「自分らしさ」を継続するために家族等の来訪時により多く話し合うようにしている。ホームの「りんご便り」に通信欄を設け、各入居者ごとにホームでの様子や小遣いの収支などを記入し家族に報告している。	家族等とのコミュニケーションは十分とれているものと思われる。更に意思疎通を図るための一つの手段として大勢の家族が運営推進会議に参加できるような働きかけを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で意見・提案を話し合いそれを反映している	毎月ユニットごとの会議を全職員参加で行っている。年3回の2ユニット合同の会議もある。管理者には事業所の運営に対する意見や要望、ホーム長には現場の相談など気軽な話し合いとなっている。ユニットごとに職員も固定化したので入居者も安心し職員もゆとりを持って接することが出来るようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備に努めたいが、現在の介護報酬では限界がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加を呼びかけながら皆で頑張っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のスタッフ交流を定期で実現させたい		

グループホームりんごの樹・きいろユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人から十分にお話を伺って、その情報を共有しながら慎重に進めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に管理者とホーム長が時間をかけてゆっくりお話をさせて頂く		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と担当職員が情報を共有し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念でもあり努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの理念でもあり努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得ながら支援するがどこまで対応出来るか？	入居者の友人や趣味の仲間との関係が途切れることのないよう支援している。入居前からの馴染みの美容院や慣れ親しんだ近隣の花見の名所等にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の能力を試されるケースだと思う質や能力の向上に努めている		

グループホームりんごの樹・きいろユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を決めて定期的にカンファレンスを行い その人らしい暮らしを支えている	日々の会話の中から入居者の思いや意向の把握に努めている。食事の用意の時、ある入居者の「赤いのを切る」の言葉から赤は「人参」と察することが出来るようになった。また職員が綴っている「気づきノート」から、入居前の生活歴などの情報ではわからなかった性格や嗜好などに関する新たな発見をすることができ、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族 以前に係わったケアマネさんより情報を頂きサービスの向上に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し職員がその情報を共有し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めて定期的にカンファレンスを行い その人らしい暮らしを支えている	本人や家族から思いや意向を聞き、各入居者を担当する職員3人で暫定プランを立て、それをケアマネージャーが確認し介護計画を作成し、ミーティングの時全職員の意見を集約し最終決定に到っている。計画に対しての評価は毎日行なわれている。状態に変化があれば家族に相談し現状に即した介護計画に作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	そのようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模だから出来るサービスだと思い 努力しております		

グループホームりんごの樹・きいろユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携体制を大切に考え支援が 出来ている	本人や家族の意向で協力医がかかりつけ医と なっている場合が多い。一ヶ月に一度協力医による 往診もある。歯科医等、専門医への受診は事業 所が送迎し、家族とは病院で落ち合い診察に立ち 会っている。特定老人健診やインフルエンザ予防 接種も協力医によって行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を密にし、支援が出来てい る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制を大切に考え支援が 出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者やご家族と終末期に向けて 早い時 点より話し合い、意向を伺うとともに看取り の段階に至った折には入居者やご家族の 気持の変化をキャッチして安心と納得が得 られるように取組んでいる	指針もあり看護師を中心に職員の教育も十分行 なわれている。家族には契約時に説明しサインを 頂いている。平成17年開設以来、ホームでの看取 りは今年の8月度を含め3件ほどになる。家族、医 師、看護師、職員との綿密な連携プレーで看取り の支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームの看護師の指導や研修会の参加に より身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社員の緊急連絡網の整備や 年2回の火災 訓練の実施 近隣の方々へのお願い 等進 めている	年2回火災訓練が行われている。入居者や近隣の 住民が参加し避難訓練が行われ、通報訓練や消 火訓練も合わせて行われている。スプリンクラーも 年内に設置される予定である。	

グループホームりんごの樹・きいろユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念の一つでもある 穏やかな言葉かけや、ゆったりとした態度で 継続した支援を目指している	本人の気持ちを大切に考えさりげないケアを心が けている。呼びかけも入居者の醸しだす雰囲気によ り名前や苗字で呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	共同生活の為、制限される事もあるが出来 るだけそのような支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の為、制限される事もあるが出来 るだけそのような支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	させて頂いています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	大切なことと考え色々な工夫をして皆で楽し んでいる	訪問調査時の昼食は五平餅であった。御飯をつ ぶしたり丸めたりと入居者の昔培った力が十分発 揮され出来上がった。昼食時に職員から「一生懸 命つぶしましたね・・・」、「肩が痛くないですか・・・」 などのねぎらいの言葉や「美味しい・・・」の賞賛の 言葉もあり笑顔の昼食であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	看護師や栄養士の意見を聞き 状態を記録 に残しその後の参考にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	ホームの歯科衛生士の指導で口腔ケアを実 施している		

グループホームりんごの樹・きいろユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用するなどして排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる	入居時紙オムツを使用していた方が熱心なケアの結果トイレでの排泄や布パンツとパットに改善され毎日を気持ちよく過ごしている。夜間もオムツを使用せずトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指導や研修会で身につけた知識を生かして皆で取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように工夫をしている	一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援している。一週間に少なくとも2回は入浴している。入浴を嫌う方もいるが午前中が難しければ午後に再度声掛けするなど根気良く取り組んでいる。機嫌のよい時は湯船で歌の出る入居者もいる。季節の菖蒲湯、林檎湯、ゆず湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	頑張っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導で支援出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	係りを決めて色々な計画を立てている	本人の力量に合わせて徒歩や車椅子で近くのパン屋さんに出かけパン屋さんの開放された芝の庭で思い思いのパンを食べ昼食とすることもある。また職員がオーナーのぶどう園に出かけぶどう狩なども楽しんでいる。	

グループホームりんごの樹・きいろユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの皆さんが 自身での管理が難しくなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気配りと工夫が出来ていると思う	暖かい日射しを受けてテラスの長椅子で皆でお茶を飲み、前に広がる林檎畑、赤く色づき始めたりりんごを見ながら「リンゴの唄」を歌ったり、ヘリコプターの旋回を見上げたりしている。ユニットの中央にある畳コーナーを指差し、「こたつが出来るんです。うたた寝をするんです。」との入居者からの楽しみの声も聞かれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気配りと工夫が出来ていると思う		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	気配りと工夫が出来ていると思う	大きな名前の印された居室は冷暖房が完備されている。使い慣れたベットや筆筒などが持ち込まれ、位牌を置く入居者、テレビを置き自分の好きな番組を見る入居者など思い思いの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	気配りと工夫が出来ていると思う		